

「遊々の森」産土（うぶすな）の森での林業体験

三陸中部森林管理署では、平成15年から大船渡市立末崎中学校と「遊々の森」の協定を締結し、生徒が林業体験を行うため「産土^{うぶすな}の森」と名付けたフィールドを活用した森林整備活動を通じ「海を育む森林を守り育てる大切さ」や「森林と海とのつながり」について、生徒の皆さんに理解を深めていただく取組を支援しています。

林業体験に先立ち、令和4年6月14日に当署職員が講師として中学校へ出向き、「森林整備の必要性」や「現地作業での注意点」等を説明するなどの事前学習を実施しました。



「森林の働きと私たちの生活」



「人工林の育て方」



「作業についての説明」



「森の生きものたち」

また、6月30日の林業体験では、大船渡市末崎国有林産土^{うぶすな}の森において3年生の生徒23名が事前学習で学んだ植付・単木保護管設置作業や下刈を実際に体験しました。

当日は炎天下での作業となり、使い慣れていない唐鍬での植付作業に苦勞する場面や単木保護管設置作業では、支柱にクリップを装着する作業に手こずる場面もありましたが、班の仲間と協力しながら予定数を終了することが出来ました。そして、自分の背丈程もある下刈鎌での作業も徐々にペースが上がり予定範囲を無事に終了することが出来ました。



開会式の様子



苗木保護管設置の様子



下刈の様子

その後、帰りのバス出発時間までの間、通岡駐車場において、生徒と当署職員によりクリーン活動を実施しました。短時間での活動でしたが、大量のゴミを集めることが出来、見違えるほどきれいな駐車場になりました。



クリーン活動の様子



クリーン活動終了後の集合写真